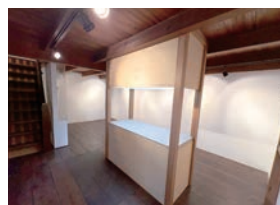


過去と未来をつなぐ、 時の蔵で。

下館・時の会 代表者 一木努 Ichiki Tsutomu



「通り沿いの時計店が取り壊され、初めて現れた蔵の姿に驚きました」と一木さんは言います。石を段々に刻んだ精緻な細工、銅板の雨樋、石造りの階段。

その一つひとつに、明治の職人たちの確かな息づかいが残っていました。

調べていくと、この蔵は大町から本城町へ、さらに坂を下り現在の場所（甲939・田町）へと移されながら、大切に守られてきた存在だったことがわかります。

「この辺で一番の蔵だ」と言う地元の石屋の言葉が、その特別な価値を物語っていました。蔵の解体期限が迫る中、建築・法律・まちづくりに関わる仲間が集い、市へ寄贈することで、解体を免れました。名付けて、「時の蔵」。人が集い、語り、表現するイベントの場として生き続けています。一木さんが守っているのは、建物であり、筑西市の時間そのものです。

■ 一木さんのおすそわけは、

**時の蔵をはじめ、郷土の文化遺産の保存活用について、
共に考えることです。**

連絡先は、TEL.0296-22-2457